

2016年度 第1回

競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研修（研究）会報告



下段：平修久研究代表 木下大生准教授 田澤薫教授
若松昭子教授

2016年7月13日（木）、第1回目の「競争的資金獲得・コンプライアンス推進のための研究会」が、教授会室において聖学院大学総合研究所主催で開催された。当研究会代表の平修久副学長の趣旨説明後、科研費研究代表者の木下大生人間福祉学科准教授、田澤薫児童学科教授、審査委員経験者の若松昭子政治経済学科教授が講演を行った。参加者は26名（講演者4名を含む）であった。研究会の概要は以下の通りである。

はじめに平教授より趣旨説明が行われた。今回の研究会も競争的資金、特に科学研究費補助金（以下科研費とする）の申請に焦点が当てられた。全体の科研費の応募件数、新規採択率の傾向について触れ、申請を強制化する研究機関がある現状が語られた。さらに科研費申請においては、今後審査システムの見直しなどが行われ、平成30年度に新制度での申請実施が計画されている。このことを踏まえた上で、聖学院大学の近年の応募状況と採択状況が報告された。

次に3名の講演者による発表が行われた。木下准教授は、申請書の書き方について、自身の申請

書の提示及び申請の際の経験を踏まえた上で、具体的なポイントを挙げながら講演された。その際、実際の申請書の項目にそって作成時に役立つ点を説明された。

田澤教授は、木下准教授と同様に書き方についても詳しく触れたが、「なぜ競争的資金を獲得しようとするのか？」というテーマのもと、「研究者として申請書を書く意味」という申請における重要な研究者の姿勢を中心に報告された。さらに「申請書が通るためには」という点において、異なる分野の採択された申請書を提示し、その共通点について言及された。

若松教授は、「審査委員側」の視点から審査の仕組み、申請書の評価方法や審査ポイントを述べられた。また事前準備として審査規程、審査の手引き、審査委員名簿などウェブ上で公表されている情報を収集し、確認しておくことの重要性を指摘した。

3名の講演者に共通する特筆すべき点は、競争的資金獲得のために「複数の視点」が必要であると示されたことである。そのひとつが申請者の視点である。この視点はさらに主観的視点と客観的視点に分けられる。前者は自らの研究とその「品格」を意識することであり、後者は申請者が自身の研究を客観視する努力を行うことである。田澤教授はこのことの重要性を強調された。

そしていまひとつは第三者の視点である。この第三者は採択者の場合と専門以外の人物の場合に分類できる。3名の講演者は異口同音に第三者の視点が必須であると述べていた。その理由はこの視点が「審査員側」の視点に近いためである。それゆえに視野を広く持ち、率直な意見を受け入れ申請書作成に活かすことが競争的資金獲得成功への鍵といえよう。

講演後の質疑応答では、参加者が講演者へ申請書作成に係る具体的な質問をされた。その質問の具体性から各研究者が科研費の申請へ高い関心をもち、採択への道を模索していることが感じられ

た。このような研修の場があることは、新たな科研費採択へつながるものと期待される。今回も申請書の書き方に関する実践的な方法及び助言を得る機会になったと同時に、申請する目的を改めて各人が問うことのできた意義ある研究会となった。

(文責：木村 美里 [きむら・みさと] 聖学院大学基礎総合教育部特任助手)